

第 10 回 藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会

主 催：藤枝市 健康福祉部 地域包括ケア推進課

と き：令和 8 年 9 月 16 日（水）午前 10 時～

ところ：市役所西館 5 階 大会議室

1. 開 会

2. 健康福祉部長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 議 事

（1）部会の報告について

- ・部会① 資料 1
- ・部会② 資料 2
- ・普及啓発活動の取組 資料 3

（2）今後の進め方について 資料 4

5. その他

【次回以降の開催について】

○社会参加バリアフリー部会 11 月 30 日（月）15:00～ 市役所西館 3 階 303 会議室

○意思決定支援部会 12 月 18 日（金）18:30～ 市役所西館 3 階 303 会議室

○第 11 回藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会

3 月 11 日（木）14:00～ 生涯学習センター第 2 会議室

認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会
部会①社会参加バリアフリー

～安心して買い物を続けられる環境づくりに向けて～
あなたの声を聞かせてください！

日 時	令和8年 7月28日（火） 13時00分～14時30分
場 所	杏林堂ドラッグストア藤枝駅北店
参加者	20名 （ 本人3名、家族3名、事業所1名、包括2名、 杏林堂薬局3名、県職員5名、地域包括ケア推進課3名 ）

目 的	● 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進 多様な分野や立場の人と連携・協働し、認知症の人や家族等の声から暮らしの中にあるさまざまなバリアを知り、必要な配慮を得ることができる環境づくりを進める。
目 標	① 認知症の人等が買い物や外出を続ける上でのバリアを知る。 ② 認知症の人や事業者等が対話を通じて、バリアの解消に向けアイデアを出し合う。 ③ バリアの解消に向けて必要な取組や課題を整理する。 ④ 創意工夫により、“ちょっと”できる取組を施行する。 ⑤ 取組の内容や成果を関係者へ共有し、取組の広がりにつなげる。 ⑥ 認知症の人との関わりを通じて、多様な主体が“希望ある認知症観”への理解を深める。
内 容	□ お店の中を一緒に歩きながら、「こうだったらいいな」を見つけよう！ ・普段感じている買い物のしづらさや困りごとを一緒に確認しよう。 （支払いや配置、表示の見やすさなど）【みんなで買い物】 □ 安心して買い物を続けるために、アイデアを出し合おう！【意見交換】

◆ 普段の買い物の様子や感じていること

- 認知症が進行しないよう歩くことを心がけている。色々なところに歩いて出かけるようにして、出かけた先で色々なお店に行く。買い物は目の保養にもなっている。
- お店が広いと歩き疲れるけど、良いウォーキングになる。
→ 実際ウォーキングのためにお店に来る人もいる。

- 夫が体調を崩し、認知機能も低下した。“夫に何もさせないように自分が動くしかない”と思っていたが、映画「オレンジ・ランプ」を見てから、考え方が変わった。“1人で行ってきな。分からなかったらお店の人に聞いてきな!”とチャージしたカードを夫に渡し、一人で買い物に行くことを勧めた。

そこから夫が一人で買い物に行くようになった。最近は決まったお店だけでなく、コンビニにも行けるようになった。

夫に当時の心境を聞いてみたところ、「もう分からないから、聞くしかない!」と言っていた。

コンビニにも行くようになり、千円札で支払っているようで、自宅の机に小銭が分けて袋に入れてある。

◆ 普段の買い物の様子や感じていること

- 買い物するものをメモしておく。(1人だとメモをどこに置いたか分からなくなることもある)
ヘルパーさんと一緒に買い物に行っている。
もともと通っていたお店は、今でも一人で買い物に行く。
店の人が自分のことを分かっている気にかけてくれる。
困ったとき、忙しいお店の人に声をかけては悪い気がするから自分からは言えない。自分のことを知ってもらった方が楽しい。
- セルフレジは「打ったかしら？」と心配になる。混んでいても有人レジに行く。
- チラシを見て買い物に行っても、「チラシのこの商品どこ？」となる。
- 商品が多いと、何を买おうか迷ってしまう、選べない。



- ◆ 安心して買い物を続けるためにアイデアを出し合おう！
(お店を歩いて気づいたこと、感じたこと)

【売り場】

- 呼び出しボタンがあると分からないときに押せる。(薬と化粧品にはある)
- あっても押すことをためらう人がいる。
- 夫婦で来た時に、それぞれ商品を見ているとお互いの居場所が分からなくなることがある。そういった時に、レジを探すことがあるため、レジの方向が分かる表示があると良い。
- パンが個包装になっていて買いやすい。
- パンの近くにジャムが置いてあると良い。(関連したものが近くにあると嬉しい)
- 一人暮らし高齢者が、そこに行けば必要なものが揃うというコーナーがあると良い。
- 通路が広くて歩きやすい。

◆ 安心して買い物を続けるためにアイデアを出し合おう！
(お店を歩いて気づいたこと、感じたこと)

【商品を探す】

- 上の商品案内が細かいから分かりやすい。
(お菓子でなく、チョコレート等)
- 見上げる看板より、床に動線の案内があると分かりやすいかも。
- たくさんあって目移りしてしまう。
- 初めてのお店はどこにあるか分からない。
- 店頭にはたくさんの液体洗剤が並んでいて、自分がいつも使っているものがどれか分からない。だからヘルパーさんと一緒の時に買っている。
→いつも使っているものを写真に撮っておくと良いかも。
- 同じ商品なら、一番安いものを選んで買っている。ただ、いくつも並んでいると、どれが一番安いのか分かりづらい。



【レジ・支払い】

- セルフレジに挑戦してみて、スキャンや現金ボタンは分かりやすくできるが、クーポンやポイントの表示に戸惑う。
- セルフレジはドキドキする。
次の人が待っていると待たせて申し訳ないと思う。





- ◆ 安心して買い物を続けるためにアイデアを出し合おう！
(お店を歩いて気づいたこと、感じたこと)

【店員さんとのやりとりなど】

- 聞きやすい雰囲気があると安心して聞ける。
忙しそうだと聞きづらい。
- 聞きやすい人がいるといいな。
聞きやすい環境だといいな。
- 自分が忘れていても相手が覚えていてくれていると
安心して買い物ができるな。

【その他】

- 1回成功すると嬉しい。失敗すると懲りちゃう。
- 杖を使っている人がカートを使うときに、杖の置き場に困った。

【取組の意義】

- これから更に大きくなっていく社会課題として受け入れるとともに、大いに賛同し、地域のために変化していきたい。

【所感】

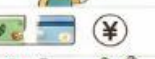
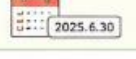
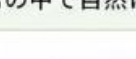
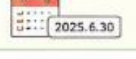
- いただいたアイデアについて、可能な範囲で取り入れたい。
- 認知症の症状は、人それぞれな印象。改善効果が高いものがあればご教授いただきたい。

【ジレンマ】

- 企業として、現実的には利益との両立も考えていかないといけない（それでないと続かない）
- 一般お客様のニーズと共存させるのが難しい
（例）たくさんの液体洗剤→一般客にとっては、「私の欲しいものがある」
→認知症の方にとっては「どれか分からない」

◆ 店舗側 事業者視点でのコメント ～杏林堂薬局 健康医療NW推進部～

買い物物の行動と認知症予防の効果 ～買い物は脳を活性化するトレーニング～

買い物の行動	使われる認知機能	認知症予防につながる理由
1 買うものを考える 	 記憶・計画力	冷蔵庫の中を思い出し、不足品を考えることでワーキングメモリを使う 
2 献立を考える 	 実行機能・創造力	食材同士を組み合わせ、段取りを考えるため前頭葉を活性化 
3 買い物リストを作る 	 記憶・整理能力	情報を整理し優先順位をつける訓練になる 
4 店まで歩く 	 身体活動	有酸素運動は脳血流を改善し、認知症リスク低減に寄与 
5 周囲の景色を見る 	 注意力・空間認知	季節や周囲の変化に気づくことで脳への刺激になる 
6 店内を歩き回る 	 空間認知	商品の位置を探すことで海馬や頭頂葉を使う 
7 商品を探す 	 注意力・探索能力	多くの情報から目的の商品を見つける訓練 
8 値段を比較する 	 判断力・計算力	コストパフォーマンスを考えることで前頭葉を使う 
9 栄養表示を見る 	 読解力・判断力	数字や情報を理解し選択する認知活動 
10 商品を選ぶ 	 意思決定	複数の候補から選択することで実行機能を使う 
11 重さを持つ 	 身体機能	握力や筋力維持は認知症予防とも関連がある 
12 レジで会話する 	 言語機能・社会性	店員との会話は社会的交流になり孤立予防につながる 
13 電子マネー・現金で支払う 	 計算・操作能力	金額確認や決済操作は認知機能を使う 
14 袋詰めする 	 段取り・空間認知	壊れやすい物を考えながら詰める実行機能 
15 家まで持ち帰る 	 身体活動	運動習慣の一部となる 
16 冷蔵庫へ片付ける 	 記憶・整理能力	食品を適切な場所へ収納する認知活動 
17 賞味期限を確認する 	 注意力・記憶	情報を確認し管理する習慣になる 



買い物は、身体・認知・社会のすべてを使う「脳と体の総合トレーニング」!
日常の中で自然にできる認知症予防の習慣として、積極的に取り入れましょう。



JAPAN AIで作成

【取組の意義】

- 私たち杏林堂薬局は、健康寿命延伸「地域を元気に」することをミッションとしています。地域の様々な皆様のお力、知恵をいただき、これからの社会に対応した店づくりを努力していきます

今後の進め方について(案)

年度	取組内容(案)
令和8 (2026)	取組①杏林堂 ⇒第1回部会① 安心して買い物を続けられる環境づくりに 向けた取組から必要な視点や取組を考える。 取組②検討中 ○令和9年度に行う事業所へのヒアリング内容検討
令和9 (2027)	事業所等へのヒアリング(重点施策に関する内容含む) 及び取組への協力の打診 取組③～⑤
令和10 (2028)	取組①～⑤の事業所が集まり、安心して買い物を続けられるため の環境づくりを市内全域へ広げていくためのWG開催。 (活動を広げていくために必要なツールの検討、作成)
令和11 (2029)	成果物をもとに市民及び市内事業所へ普及啓発

計画評価
の年

認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会 第1回 部会①バリアフリー社会参加 ～安心して買い物を続けるために大切な視点～

部
会
で
の
主
な
意
見

準備 【個別支援】	移動 【必要な配慮を伝えられる仕組み】	お店に入る	商品を探す・選ぶ 【誰にとっても分かりやすく】	会計 【支払いの分かりやすさ】
「何が買いたいか」が起点。 - 社会参加につながるまで、誰がどのように支援するか。 - 本人の工夫も大切。 - 家族のサポートも大切、心配しすぎない、事前の準備（買う物の確認等）。 - 環境や場所に慣れるまでの支援も必要。 - 本人や家族も諦めてしまっていることがある。 - 本人も慣れればできることもある。体験会に参加できると良い。 - 困った時に備え、名前や連絡先が分かるものがあると良い。夜間は特に。 - 買い物の予定や移動手段を家族等と共有できると良い。	自分で行き、見て選びたい。重い物などは、タイムラグなく配達できる仕組みがあると良い。	- 事業者には本人かどうかの区別が付きにくい。 - 知られたくない人にも配慮しながら、<u>必要な人が意思表示できるものがあると良い。</u>（マタニティマーク） - 歩いた後に休憩できる場所があると良い。 - カートに杖やバッグを置けるスペースがあると良い。	- 商品の分かりづらさは、認知症の人に限らない。 - 認知症の人に限らず、誰にとっても分かりやすい表示が必要。	- セルフレジ等は、見やすく、分かりやすく、手順が簡単になると良い。 - クーポンやポイントが分かりづらいと本人が損をする。誰もがリーズナブルに買い物できると良い。 - カードやポイント等、支払いの工程が多いため、シンプルになると良い。 - もたつき、待たせることで不安になる。支払いがシンプルになると良い。 - 支払いでは、次の人に気を遣う。

- 理 解： ・ 多くの人に認知症を理解してもらう取組が必要。 ・ 誰もがなる可能性がある。バリアがどこにあるか知ることが第一歩。
 ・ 安心して伝えられることで、家族も安心して買い物に送り出し、後押しできる。
- 本人参画： ・ 個を大切にする。 ・ 積極的に本人に参画してもらう。
 ・ 本人の声を汲み上げ、本人自身が声を挙げられる仕組みがあれば、一緒に地域を変えていける。

社会参加を続ける
ための個別支援
【部会②と連動】

①本人の声を起点に
取組を重ねる
杏林堂での取組を踏まえ、
他の事業所でも取組を積
み重ねる。

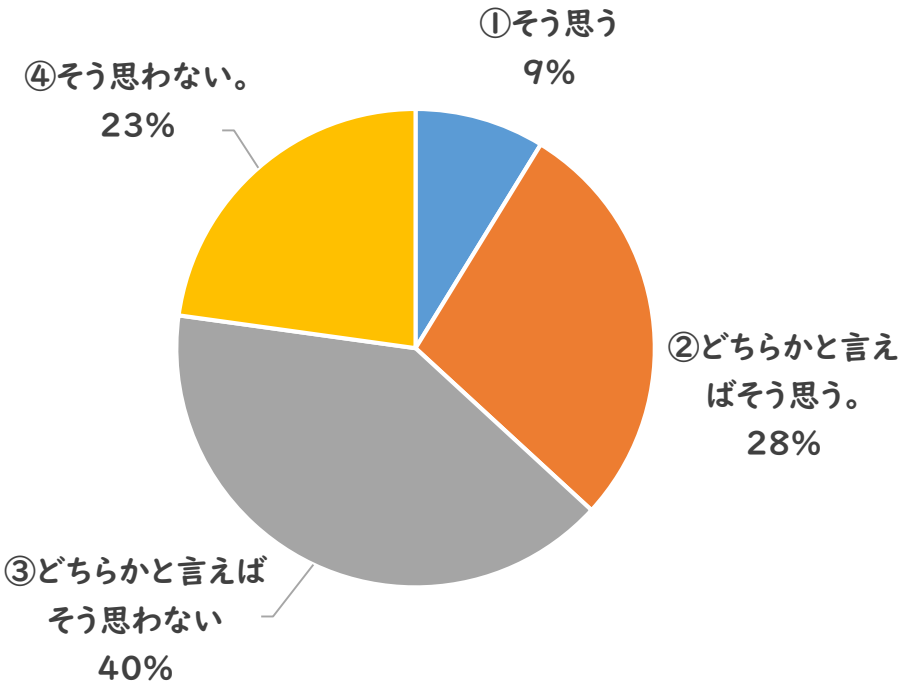
②事業所との
対話・連携を広げる
ヒアリングや取組等を通
じて、バリアを把握し解消
に向けた取組を考える。

③取組をつなぎ、
市内全体へ広げていく。
事業所と取組の振り返り
を行い、必要なツール等
を検討・普及へ。

□ 認知症に関する学び合いの機会でのアンケート【R8.4.1～R8.9.11まで】
【社会参加】

- あなたの住む地域では、認知症の人が外出や買い物、地域活動などの自分のやりたいことを実現できていると思いますか。

①そう思う	5
②どちらかと言えばそう思う	16
③どちらかと言えばそう思わない	23
④そう思わない	13
⑤分からない	42
未回答	1
合計	100



【社会参加】

そう思う、どちらかといえばそう思う

□ 支援や手を貸してくれる人がいる 3件

- ・サポートが充実しているから
- ・手を貸してくれる人がいる
- ・社会全体で認知症に対する認識が高まり、不安を減らすサポートができていると思う

□ 参加する場や地域とのつながりがある 2件

- ・いろんなコミュニティがあることを知ったので
- ・町内会のおつきあい

□ 本人なりの工夫や対応ができる 2件

- ・メモをして忘れないようにする
- ・認知症であることを自分自身が把握して、対応策を考えたい

□ 症状の種類・程度による 1件

- ・認知症の度合いによりますが…

分からない

□ 身近に認知症の人がいるか分からない・かかわりがたい 8件

- ・元気な年寄りが多く、認知症の人がいるのかわからない
- ・自分の周りにまだ認知症の方がいないから
- ・認知症の人と接触がない

□ 地域の現状・取組・事例を知らない 6件

- ・地域での現状を知らなかったので情報を得たい
- ・どのような取り組みをしているか不明
- ・例を聞いたことがない
- ・現在の活動を知らないから

□ 本人の状態や意思による 1件

- ・認知症の程度によって支援内容もまちまち。
当人の意思表示がないことにはどうにもならない

【社会参加】

そう思わない、どちらかといえばそう思わない理由

□ 交通・買い物・支援体制の課題 5件

- ・公共交通の点で無理かも
- ・移動手段が少ない
- ・買い物が不便
- ・体制が整っていない

□ 地域のつながりが少ない 4件

- ・人が少ない地域でかわりがない
- ・最近特に近所との付き合いがないので、相談する人もいない
- ・自治会、町内会、町民どおしのつながりが少なくなっている

□ 地域の取組や事例が見えない 4件

- ・自分の地域が認知症の人のために何を取り組んでいるのかがぱっと見わからない
- ・地域で認知症の人のお話を聞く機会がない

□ 症状・身体状態によって難しい 4件

- ・認知症以外にも病気、痛み等ある場合、自由に行動することをためらってしまう
- ・どうしても制限ができてしまうから

□ 家族・支援者・生活環境による 4件

- ・介護・サポートする人が少ない気がする
- ・家族がどのような考えをもっているか、それぞれで生活環境も違う

□ 理解を広げる機会が必要 3件

- ・偏見が根強い
- ・今日のような講座をもっと幅広く行ってもらい多くの人に知ってもらう必要がある

□ ボランティアがあれば可能 1件

- ・ボランティアを利用すればできると思う

認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会
部会②意思決定支援

事例を通じて
意思決定支援に必要な関わりや取組を考える

日 時	令和8年 7月28日(火) 18時30分～20時00分
場 所	藤枝市役所西館3階 303会議室
参加者	18名 (家族、静岡大学、志太医師会、藤枝市立総合病院、 藤枝薬剤師会、藤枝市介護支援研究会、グループホーム 連絡協議会、藤枝市介護福祉士会、地域包括支援センター)

目 的

- 認知症の人が自らの意思によって、希望を持って自分らしく暮らし続けられるよう、事例を通じて認知症の人の意思決定支援について理解を深めるとともに、多様な立場から必要な支援や取組について検討し、それぞれの職域や活動における実践の充実を図る。

内 容

□ 事例の紹介

『認知症の人の意思決定支援と家族への伴走』

□ 意思決定支援のプロセスのポイントの確認

GWの目的やグランドルールの確認

□ 意見交換【グループワーク】

- ① 本人の「意思決定能力を奪わない」医療連携や説明のあり方について、多職種連携の視点からそれぞれの立場で必要なことを考えてみましょう。
- ② 本人の地域での活動の継続に向けたサポートや、夫へのサポートを意思決定支援のガイドラインに照らし合わせて考えてみましょう。

□ 共有

1 グループ

①

医師
薬剤師
ケアマネ

→それぞれの役割

薬をのまない理由を薬局が話をできたのでは？
→でも難しい。

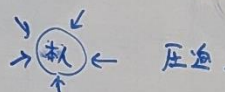
- ・医師の説明が不十分。
- ・うつ病の人に説明するのは、難しい。
- ・夫が同席していない。
- ・説明しても、家に帰ると、理解しない。
- ・他の説明方法があたのたでは？ → あれば違うステージへ行ったのでは？
- ・包括に話がいくのか？
- ・家族 → 包括に相談すべき。
etc.
- ・薬の内容が理解できなかった。
- ・本人が先生からどう言われたかを、明確に
本人の認識を、確認すべき
↑
どのタイミングで？

医師が薬の内容を
説明すべき。

②

- ・地域のサロン。
- ・本人のしやみを聞く → 広げる。
- ・家でのみきこもり → 外へ。（色々な集まり）
- ・情報はどこから。
- ・自分が次の役に立つ場 ← 見つけるのが難しい。

- ・外の人とつながることが重要。
- ・本人・家族 ↔ 薬局。つながると理想的。
かかりつけ薬剤師
- ・SOSが出た時に聞きとる能力（介護・医療）



- ・本人が周りに参加したくない人もいる。
- ・人それぞれ段階ごとに、情報が分たれされている。
- ・本人の意志が出ない人、本人の意志とは
→ 言葉でなく、態度 → どう引き出すか？
改めるときよりも、日常の行動から。



- ①
2. MSWの視点. Qと患者のコミュニケーション → コミュニケーションの文脈. → 理解ができていたか? 確認している?
- (院内での連携: 環境整備)
- ・HDS-R... 検査への不協... 家族に対し投棄の促し. → 本人の投棄に対する家族の意思はどう伝えるか?
 - ・家族の本人の意思がなくなれば自分が乗になるのでは... → 本人に投棄の説明が必要なのは?
 - ・本人の意思が受け入れられない場面 (イライラする: 抑肝散の処方) → どのようにして受け入れるのか?
 - ・認知症 = ドメスティック → サポート医のフォロー (情報共有)
 - ・背景 (患者のバックグラウンド) → 情報共有から 多職種連携.
 - 内的論理の導き
 - ・薬剤師: 薬から病気を推察している
 - ・GHアセスメントで「その人を知る」 → 選択しやすい工夫

- ② 地域の人々の理解
- ・「ほっと会」 → 使い方がわかると... → 入院・退院 (共に).
 - ・「ふゆあいか」... 元気な人前提 → 地域に引きこもり → 認知症への理解が社会参加の鍵 → 初発会開催
 - ・「車輪笑」... 移動の困難 → 近くで参加しやすい雰囲気
 - ・高齢者の中で認知症の人をバカにする → 「サクレ」で説明
 - ・グランドゴルフに認知症になってしまった → 家族は電報に書かないで... → 使い方がなくなることに意気
 - ・何か役割をもてないか? → チームで共有はよく → 得意なこと・好きなこと → どうやって共有できる?
 - ・世代間を広げて考えていくことが大切
 - ・若い人はどう思っているのか?
 - ・家族で... 家事の共有 → カをうばわない... 一緒にやる取りか
 - ・夫... 自然にわかる場合は受け入れなくていい
 - ・子どもに伝えて伝える



認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会 第1回 部会②意思決定支援

～事例を通して意思決定支援においてそれぞれの立場で必要なこと～

医師

- ・ 病状・治療・薬について本人に説明する。

本人に関わる多職種

- ・ 本人が説明をどう理解・認識しているか確認する。
- ・ 医療機関の説明だけで終わらせず、暮らしの中でも本人や家族の理解や認識をフォローする。
- ・ 本人の生活歴・背景・日頃の様子を共有し、「その人を知る」。

薬剤師

- ・ 服薬状況や薬を飲まない理由を確認し、本人の認識や思いを把握する。

家族

- ・ 本人の思いや受け止めを大切にしながら一緒に考える。
- ・ 家族自身の不安や思いを抱え込まず、関係者と共有する。

本人

- ・ 「自分のことを知ってもらおう。」
- ・ 自分の思いや希望、分からないことや不安を自分なりの方法で伝える。

← 多職種で連携し、必要な情報を共有する。 →
それぞれの立場から本人を知り、情報を共有しながら関わる。

見えてきた現状と課題

現状

- ・ 病状や治療について説明を受けても、本人や家族の理解・認識と一致しているとは限らない。
- ・ その場では理解していても、時間が経つ中で受け止め方や認識が変わることがある。
- ・ 医療機関での説明だけで終わり、暮らしの中での確認やフォローが十分でないことがある。
- ・ それぞれが持つ情報がバラバラであり、共有できていない。

課題

確認

本人の理解や認識を誰がどの場面で確認するのか。

つなぐ

医療機関での説明と、暮らしの中でのフォローをどうつなぐか。

共有

本人に関わる人が持つ、本人の情報をどう共有するか。

チームで共に考え本人の意思決定を支える

認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会 第1回 部会②意思決定支援

～本人が地域の一員として暮らし続けるために、
立場を活かしどのような環境調整やネットワークを作るか～

本人

- ・ 自分の好きなことや得意なことを続ける。
- ・ これまでの地域とのつながりや役割を続ける。
- ・ 言葉や日頃の行動等、自分なりの方法で、思いを周囲に伝える。

家族

- ・ 本人のできることを大切に一緒に家事などを行う。
- ・ 本人の好きなこと・得意なこと・これまでの暮らしを周囲に伝える。

地域

- ・ 認知症になってからも、これまで参加してきた地域活動等、つながりを続ける。
- ・ 本人が参加し続けられるよう、認知症の人に関する理解を深める。
- ・ 本人の得意なこと等を通して役割や活躍できる場をつくる。
- ・ 本人の変化やSOSに気づき、必要な人・機関につなぐ。

専門職・関係機関

- ・ 本人の思い、好きなこと、得意なこと、生活歴などを共有する。
- ・ サービスや関わる人、暮らす場所が変わっても、本人についての情報をつなぐ。
- ・ 本人の変化やSOSに気づき、必要な人・機関につなぐ。

見えてきた現状と課題

- ・ 認知症になることで、これまでの地域活動とのつながりが途切れてしまうことがある。
- ・ 本人が得意なこと等を活かして活躍できたり、役割の継続や見つけていくことが難しい。
- ・ サービスや関わる人が変わることで、本人の思いや情報が分断されることがある。
- ・ 言葉による意思の表明が難しくなると、本人の思いを把握しにくくなる。

課題

参加や役割を 続ける

認知症になってからも、これまでどおりの地域との関係や本人の役割をどう続けていくか。

思いや情報を 共有

関わる人、サービス、暮らす場所が変わっても、本人の思いや大切にしてきたことをどう共有し続けるか。

連携

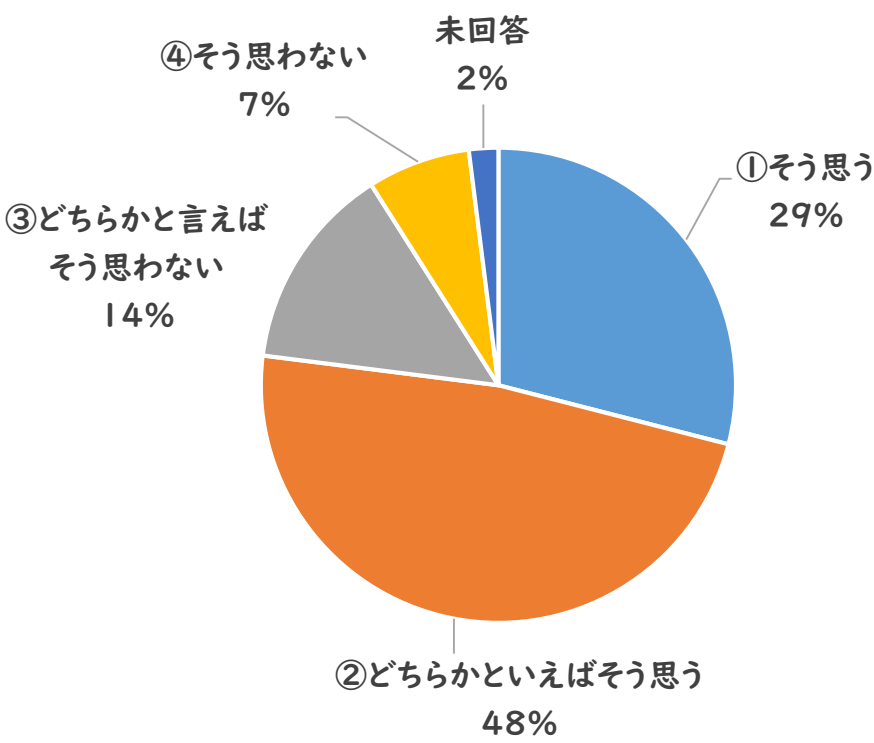
必要な人・機関につながる事ができる関係や連携をどう作るか。

暮らしを支える地域のネットワーク・環境

□ 認知症に関する学び合いの機会でのアンケート【R8.4.1～R8.9.11まで】
【認知症であることや思い等を安心して伝えられるか】

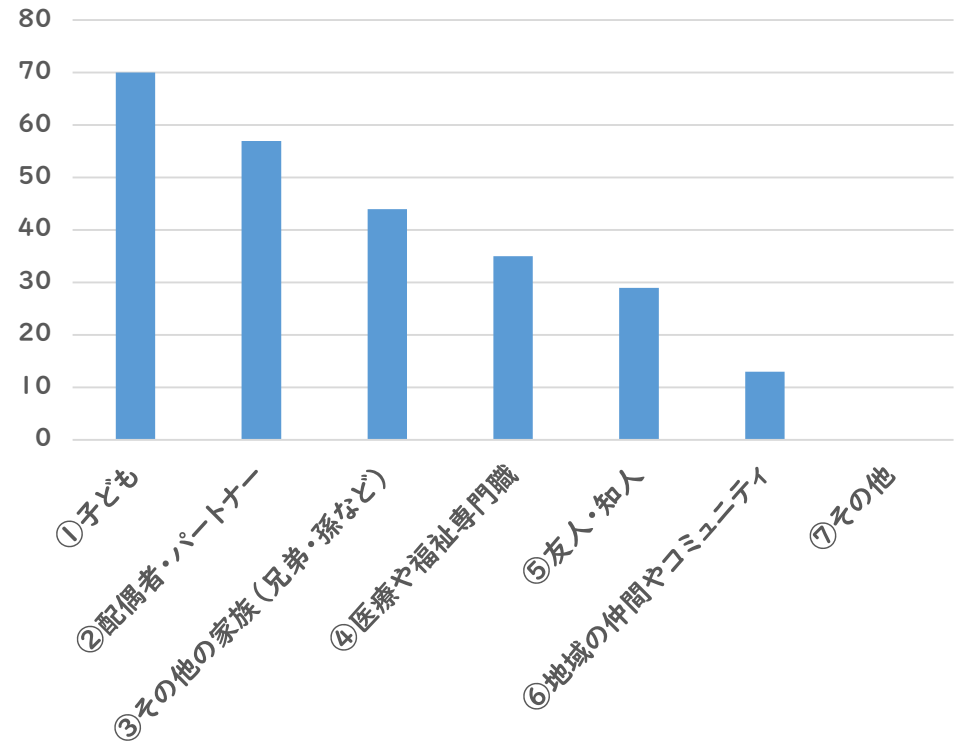
- あなたが認知症になったとき、認知症であることや自分の思いを、身近な人に伝えられると思いますか。

①そう思う	29
②どちらかといえばそう思う	48
③どちらかと言えばそう思わない	14
④そう思わない	7
未回答	2
合計	100



- あなた自身が認知症になったとき、認知症であることや自分の思いを伝えたいと思う相手は誰ですか。(複数回答)

①子ども	70
②配偶者・パートナー	57
③その他の家族(兄弟・孫など)	44
④医療や福祉専門職	35
⑤友人・知人	29
⑥地域の仲間やコミュニティ	13
⑦その他	0
⑧特にいない	0



【思いを伝えるか】

そう思う、どちらかといえばそう思う

□ 話せる家族・友人・仲間がいる 11件

- ・普段から家族と色々話をしているから
- ・サロンボランティアを長くしていて仲間がいる
- ・限られた人とのつながり、何でも話せる相手が若干いるから

□ 助けや理解を得て生活を続けたい 8件

- ・生活を助けてもらうには、伝えることが必要だと思う
- ・私自身の様子を正確に知って、毎日の生活を同じように続けていきたい

□ 自覚やその時の状態が分からない 6件

- ・認知症になったら自分ではわからない
- ・認知症になってみないとわからない
- ・言わなくても周囲が気づく

□ 伝えようという意味・早期対応 5件

- ・言いづらいとは思いますが言わなければいけないと思う
- ・親の介護を経て、自分は早期に対応したい
- ・1人でいるので早くに伝えたいと思う

□ 経験・つながり・不安が背景にある 5件

- ・人とのつながりを大切にしたいから
- ・認知症になってしまったことを伝えて、相手の反応がまだ少し怖いです

□ 周囲への影響や家族の負担を減らしたい 3件

- ・伝えることで自身が周囲に及ぼす悪影響を減らすことができる
- ・こどもに負担をかけたくないため

□ 認知症を学び、受け入れて伝えようと思う 3件

- ・今回認知症に関する知識を知ることができたから
- ・認知症は誰もがなりうる病気であり恥ずかしいことでもなく…協力してもらいながら生活する必要がある

【思いを伝えるか】

そう思わない、どちらかといえばそう思わない理由

□ 認知症を自覚できるか分からない 3件

- ・自分自身認知症の自覚を持てるか ・認知症の自覚がないから不明
- ・自分が認知症であることを自覚できるか分からない

□ 自尊心やつらさがある 2件

- ・自尊心があるから ・つらいから

□ 家族以外には言えない 1件

- ・家族以外には言えない

本人×塚本興業×中学生
中学生と料理を通した交流会の開催
(NPO法人JUNSHINSPOORTSCLUB) JUNSHINSPOORTSCLUB

日 時	① 令和8年7月29日(水) ② 令和8年8月 7日(金)
場 所	① 藤枝順心中学校 ② 藤枝南地区交流センター
内 容	① 出前講座「認知症とともに築く地域」 ② カレー作りを通して本人と交流

● 夏野菜カレー、ハッセルバックポテト



- 認知症の方はできないことばかりでなく、できることを尊重し、サポートしていくことが必要だと学びました。
- 認知症の方は認知症の方なりに工夫し、楽しい生活を送っていることが分かった。
- 私は今まで、認知症になると周りの人が何でも手伝ってあげた方がいいと思っていました。しかし実際の声を聞いて、特別扱いしてほしいわけではなく、自分でできることは自分でやりたいと思っていることを知り、考え方が大きく変わりました。
- 一人の人として尊重し、理解することが大切だと考えました。
- 認知症というのは物忘れが酷かったり、周りに迷惑をかけて、その身近な人が大変になると思っていました。

ですが認知症は出来ないことや忘れてしまうことはもちろん出てきますが、全くできないわけではなく、できることもあります。そのできることを自信を持って行動することで認知症の悪化も防げるのではないかと私は思いました。これは、認知症など関係なく、自分の得意や出来ることは自信を持ってプレーや行動することは、認知症に関わらず私たちにもできます。認知症だから特別ではないのです。なので、自分事として考えることが成長する鍵だと思います。

- 自分もなってしまう可能性があるし、自分の家族でもなってしまうかもしれないということを理解して、前向きに生活していきたいです。
- 大変なこともあるけど、その人にしかできないことがたくさんある。

- 認知症の方は日常生活の中で家族や福祉サービスの人の協力が必要なきもあり、自分でできることや難しいこともあると学びました。認知症の方が安心して豊かに暮らしていくために、周りの人が情報を共有したり、認知症の方と会話するときには、合わせて優しく接してあげることが大事だと思います。
- できないことを全部やるのではなく、できないことや、難しいことを一緒にやることに意味があると思うので、共に協力していきたいです。
- 私たちも相手の人のことを考えてサポートしていけるようにしたい。
- 私の祖母は祖父の体調もあり、数年前より認知症などの症状が悪化してしまい、できていたことが少しずつ減ってしまっています。最近の母は少し離れた祖母の家に通う生活をしています。実際に祖母に会ってみると、私の前では、少し強がっているように感じました。そんな祖母を見て何もできずに、自分の中では悲しい感情ばかり走ってしまいました。祖母と会った時の自分は前みたいに祖母と関わりたいのにもうできないのかな、と考えて、少し祖母と距離がありました。私は家に帰れる頻度があまりないのもあり、祖母に会いに行く時間も少ないし、間が空いてしまうけれど、次会った時は笑顔で祖母にいっぱい話しかけて、たくさんおしゃべりしたり、楽しいことをいっぱいしようと思いました。たくさんの人と関わりながら色々なことを学びたいと思います。
- 対等な立場に立ってお互いに助け合っていくことが大切だと感じました。

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
重点目標 1 希望ある認知症観の普及と理解の深化 重点施策 1 認知症の人の本人発信と本人参画の推進 重点施策 2 条例の基本理念の普及・啓発	普及啓発 ・地域で出向いた形での普及啓発の実施 （保健講座・認知症サポーター養成講座）	普及啓発 ・地域で出向いた形での普及啓発の実施	普及啓発 ・地域で出向いた形での普及啓発の実施	普及啓発 ・地域で出向いた形での普及啓発の実施
重点目標 2 一人一人の個性と力を生かした社会参加の促進 重点施策 1 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進 重点施策 2 認知症になってからも活躍できる多様な機会の創出 重点施策 3 介護をしながら働き続けられる環境整備の推進 ・安心安全な外出に向け た取組 ⇒・庁内連携 （地域安全・地域交通課、建設管理課） ⇒・個別支援 （ケア研・推進員）	部会① 【社会参加バリアフリーについて】 ◆安心して買い物できる環境づくりに向けた取組 ・取組①杏林堂の店舗内を本人と点検 本人と普段の買い物について意見交換 ・取組②④と同様の取組の実施予定 ・R9に実施予定の事業所等へのヒアリング内容 の検討	部会① 【社会参加バリアフリーについて】 ◆安心して買い物できる環境づくりに向けた取組 ・事業所へのヒアリング（重点目標 2 に関する内容） 及び、取組への協力の打診 ・取組③～⑤ ◆取組について媒体等により市民へ発信	部会① 【社会参加バリアフリーについて】 ◆安心して買い物できる環境づくりに向けた取組 ・取組①～⑤の事業所が集まり、安心して買い物を 続けられるための環境づくりを市内全域へ広げて いくためのワーキンググループ開催。 （活動を広げていくために必要なツールの検討、 作成）	部会① 【社会参加バリアフリーについて】 ・成果物をもとに市民及び市内事業所へ 普及啓発
重点目標 3 安心して思いを伝えられる環境づくりの推進 重点施策 1 認知症人同士・家族同士が出会い つながり合う機会の創出 重点施策 2 認知症に関する情報の発信 重点施策 3 意思決定支援の理解の促進と実践の推進 ・早期の段階での個別支援 ⇒初期段階の事例について事例検討の実施 （初期集中支援事業） ・各団体での取組	部会② 【意思決定支援について】 ◆意思決定支援についての普及啓発 ◆意思決定支援の実践の推進 ・多職種による事例検討を通じて必要な関わりや 取組の検討 ・地域ケア会議等を活用し事例を通して、多様な 立場の人と意思決定支援の理解を深め、実践を 推進する。	部会② 【意思決定支援について】 ◆意思決定支援についての普及啓発口 ◆意思決定支援の実践の推進 ・多職種による事例検討を通じて必要な関わりや 取組の検討 ・地域ケア会議等を活用し事例を通して、多様な 立場の人と意思決定支援の理解を深め、実践を 推進する。 ・本人の思いや情報を共有するツールの検討	部会② 【意思決定支援について】 ◆意思決定支援についての普及啓発口 ◆意思決定支援の実践の推進 ・多職種による事例検討を通じて必要な関わりや 取組の検討 ・地域ケア会議等を活用し事例を通して、多様な 立場の人と意思決定支援の理解を深め、実践を 推進する。 ・本人の思いや情報を共有するツールの検討・試行 ・作成したツールの普及啓発	部会② 【意思決定支援について】 ◆意思決定支援についての普及啓発口 ◆意思決定支援の実践の推進 ・多職種による事例検討を通じて必要な関わりや 取組の検討 ・地域ケア会議等を活用し事例を通して、多様な 立場の人と意思決定支援の理解を深め、実践を 推進する。 ・作成したツールの運用、普及啓発

藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会 部会① 議事録

- 日時：令和 8 年 8 月 1 9 日（水）午後 3 時 0 0 分～午後 4 時 3 0 分
- 場所：藤枝市市民会館 会議室 3
- 委員出席者：長谷部委員、杉山委員、角谷委員、塚本委員、森田委員、飯塚委員、嵐口委員
- その他出席者：大西氏（藤枝警察署前田委員代理）、知識氏（商業振興課）

- ・課長挨拶
- ・部会の目的確認 ※資料 1 参照
- ・杏林堂薬局取組共有

1. 取組報告 ※資料 2 参照

「～安心して買い物を続けられる環境づくりに向けて～あなたの声を聞かせてください！」

杏林堂駅北店に協力いただき、杏林堂ドラッグストア駅北店に認知症の本人、家族、包括、杏林堂スタッフ、県職員、市職員の 20 名で取組実施。

「～安心して買い物を続けられる環境づくりに向けて～あなたの声を聞かせてください」をテーマにお店を回った。

(内容)

- ・本人とお店の中を歩きながら、普段感じている買い物のしづらさや困りごとを確認する
- ・安心して買い物を続けるためにアイデアを出し合う

飯塚委員：2040 年には 30%の人が認知症又は軽度認知機能障害になるということで、それを社会課題として受け入れるとともに、地域のために変化していきたい。

認知症の本人から意見をもらえたため、可能な範囲で取り入れていきたい。

いただいた意見は、細かなところから大きなところまであり、全て対応していくのはなかなか難しいが、「聞きやすい雰囲気だと助かる」ということは聞きにくい雰囲気もあるということなので申し訳ない。改善していきたい。

企業として抱えていることとしては、すべて対応していきたいという気持ちになるが、現実的には利益と両立を考えなくてはならない。両立ができなければ継続ができない、他の店に広げていくこともできない。バランスの良いところを探していきたい。

一般のお客様とニーズを共存させることが難しい。一般の人にとっては色々なものがあって楽しい、認知症の人にとっては探しにくい。

取組に参加し、買い物の行動について、全てができないのではなく一部ができる

い人がいる。その一部ができないだけで買い物の全てをやめてしまうというパターンがある。店員のサポート等で買い物が続けられるようにしたい。

事務局：本人ミーティング（認知症の本人が集まり自分のより良い暮らしに向けて話し合う場）の際、バスを利用する本人とのかかわりで感じたバリアフリーのエピソードを紹介。

ある本人は、本人ミーティングに参加したいが会場が遠く、移動手段が徒歩しかない。

バスに乗ったことがなかったが、乗ってみた。そうして体験し、バスの便利さに気が付いた。失敗体験も積み重ねながらバスを利用するようになった。

乗ってみてわかったことは、両替と料金を入れる場所が違うということ。何度も両替のところにお金を入れてしまった。お金入れるところがわかりづらくて苦戦。運転手の方に「認知症があって支払いが難しい」と伝えると「機械がわかりづらくてすみません。もう少しでわかりやすい機械になるかもしれないからこれからもバスを利用してください。」と言ってくれた。

聞きやすい雰囲気があると、本人が行きたいところに行くことを後押しできる。本人の声を聞くことでどこに難しさを感じるのか、どうなったら利用しやすいか理解が深まる。本人の視点に立って、本人の声を聞くことが必要。

長谷部委員：東京だとバス停のところに番号が書いてある。漢字だと今まで覚えていてもぱっとわからなくなってしまうことがある。番号だと覚えやすい。

見やすい色。昼間見えても夜間見えにくい色もある。

人が通ると付く電気などもあると良い。

森田委員：バス会社ごとの番号はある。バス停ごとの番号があった方がよりわかりやすい。

明かりに関しては、要望が多く課題である。

運賃箱に関しては、静岡市のバスはおつりが出てくるものになっている。順次変わってくるかと思う。いただいた意見をグループとして共有したい。

2. 意見交換

「安心して買い物を続けられる環境づくりに向けての取組から必要な視点や取組を考える」

長谷部委員：認知症と言われても、個人差がある。その人個人を大切にしないといけない。

その人が見えなくなってくる、そういった社会になってきている。自分なりの工夫をすること、一人にさせないこと。本人にも、参画させること。

杉山委員：本人は、環境についていくことが難しい。お店に行くという社会参加を目指すならそこに行くまでの支援、慣れていく支援を根気強くやらないと社会参加につながらない。本人が慣れる、納得するような支援がないとあきらめてしまう。社会参加につながるまでの支援を誰がどうやるのかを考えていくことが求められる。行き慣れたところに行くだけではなく、今日は大きいところに、というように体験をする。そして「あそこに行ってみたい」という言葉が本人から出れば社会参加になる。

角谷委員：商品を探す、目移りする、たくさん商品が並んでいるとわからない、これは誰でもそう。慣れているからすぐにできる。レジの支払いも認知症に限らず難しいことはある。

買い物については、買い物に行く前に何を買いたいか、どうやって、誰といく、などを決める。「何を買いたいか」そこから考える。

働きかけなければ行かない人も多い。まずは連れ出すこと。

バスの料金についてもお店の支払いに関しても誰でも困ること。手順がわかりやすいようになるといい。

塚本委員：本人の中には認知症だと知られたくない人もいるかもしれないが、買い物のときに「認知症であること」がわかるような認知症の本人カードのようなものを提示すると、周囲の人や店員さんにもわかりやすい。

認知症を多くの人に理解してもらう取組が必要。誰もがこれからなる可能性のあること、これをどうみんなにわかってもらうかが重要。

この地域の人には優しいので、親切に対応してくれる。本人も自分が認知症であるとアピールすると家族も安心して送り出せる。

森田委員：認知症であることがわかるようなものがあると広いところで対応できるかもしれない。

クーポンやポイント（アプリや紙）わからないので使わないという人もいるため、損をしているかもしれない。リーズナブルに買い物できる仕組みがあると良い。ウェルネス事業部で認知症の人をバスで買い物に連れていく取組がある。ドラッグストアは、棚の一行が長い。導線にも配慮が必要。

カートに杖や傘、バッグを置けるスペースがあると良い。

買い物バスについて、お届けじゃだめか？という声もあるが買い物バスに参加している人は自分で選ぶ楽しみがある。買い物に出かけて刺激を得ることがで

きるので店には行きたい。買ったものの配達サービスで即時性のものがあると買い物しやすい。

飯塚委員：お金の支払いについて、工程がたくさんあって難しい。シンプルな工程のレジがあると良い。

慣れるまで時間がかかる人もいるため、体験会があると良い。ただ、できないところを人に見られるという点でそこに出てくるのが大きなハードルになるかもしれない。出てきてもらうためのやり方を考えたい。

大西氏：何に乗っていくか、どこに行くのかなど買い物計画的なものが事前にわかっていると良い。

買い物の際、本人とわかるものの所持があると良い。

嵐口委員：支払いにもたついてしまうと焦る。待たせてしまうことへの対策。支払いがシンプルになると良い。

歩いたあとに少し休憩できるような場所があると、体力的にも買い物に対しての抵抗が減る。見るだけでも運動になる。行くだけでも社会にかかわりを持つことができる。。

本人の発言、声をくみ上げるシステムがあると良い。実際の声を取り入れながら一緒に地域を変えていく。

知識氏：お店の方に、認知症のことについて理解していない人が多い。どういうことを買い物で困難に感じるのか、お店の人が知って理解するのが第一歩。

どこに何があるかわからないことは誰でもある。

心配しすぎず送り出すこと、カードにチャージしておくこと、普段買っているものを写真に撮っておくことなど家族のサポートもあると良い。

3. 今後の進め方について ※資料3 参照

角谷委員：買い物に参加した3名は、買い物ができるようになったのか？同じところに同じ人が繰り返し参加することで、お店の中でどこに何があるのかなどわかるようになる。1回や2回ではわからない。色々なことをやるよりも、これだけやってこれだけできるようになったという実績が必要。同じ人に同じお店で実施することで本人の自信になり、他でもやってみようとなる。

嵐口委員：慣れてくれば買い物はできると思うが、どのくらいの間隔でやれるか。

間隔が空いてしまうとまた1からのスタートになる。それを個別で行っていく

のは大変。

杉山委員：人が変わった場合、成果が出てくるか？同じ人で繰り返さないと成果が出てこないのではないか。

事務局：本取組は、バリアフリーの推進が主な目的。バリアフリーの推進により本人たちが認知機能が低下してからも安心して買い物を続けられることがアウトカムである。

意見交換の中でも挙げた社会参加するまでの支援というのは個別支援の部分であり、環境づくりと個別支援を両輪で進めていく必要があると考えている。

森田委員：藤枝市認知症の人に優しいお店・事業所認定制度がもっと知られていくと良い。こういった制度があることは一般の市民には知られていない。受け入れるお店を増やすことと、個人が安心して買い物に行けるようになるというのでは時間軸が違う。本取組では、個々に焦点をあてるのではなく受け入れる側を数値目標にしていけないと難しい。少しずつ取組を繰り返して広めていくというのが社会重要性を高めていくために必要。

事務局：今回の意見交換の意見を社会参加バリアフリーの推進に向けて必要な視点や取組等について、整理し、具体的な取組の検討を進めていきたい。

・次回：・**第10回 認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会**

日時：令和8年9月16日(水)10時～ 場所：市役所西館5階大会議室

・**第2回 部会①社会参加バリアフリー部会について**

日時：令和8月11月30日(月)15時00分～ 場所：市役所西館3階303会議室

藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会 第1回部会② 議事録

■日時：令和8年7月28日（火）午後6時30分～午後8時00分

■場所：藤枝市役所西館3階 303会議室

■委員出席者：杉山委員、金子委員、堂園委員長、山崎委員、原川委員、芦澤委員、小沼委員、内村委員

その他出席者：長田氏（藤枝薬剤師会）、山ノ内氏（藤枝市介護支援研究会）、宮原氏（志太医師会）、落合氏（藤枝市立総合病院）、服部氏（藤枝市介護支援研究会）

・課長挨拶

・部会の目的の確認 ※資料1、2参照

事務局：認知症の人が自らの意思によって希望を持ち、自分らしく暮らし続けられるよう、事例を通して認知症の人の意思決定支援について理解を深めるとともに、多様な立場から必要な支援や取組について検討し、それぞれの職域や活動における実践の充実を図る。

本日は多様な立場の人と事例を通じ、意思決定支援に向けた検討を行うため委員以外にも、出席をお願いしている。（詳細は名簿参照）

1. 事例を通じて意思決定支援について考えよう

事務局：本日は、事例を通じて意思決定支援のプロセスや各プロセスにおいて必要な関わりについて理解を深め、実践に向けて必要な取組を検討していく。事例について内村委員に紹介をお願いする。

内村委員：※資料3参照 ⇒資料のとおり事例について紹介

事務局：※資料『LIFE（意思決定支援の基本的考え方）』参照

※資料『意思決定支援のガイドライン』参照

⇒資料をもとに、意思決定支援の基本的考え方やプロセスについて確認する。

2. グループワーク ※資料3参照

⇒2Gに分かれ意見交換し、全体で意見を共有する。

- ① 本人の「意思決定支援能力を奪わない」医療連携や説明のあり方について、多職種連携の視点からそれぞれの立場で必要なことを考えてみましょう。

【1G】

・薬剤師：処方を確認して、うつ病の人に、「うつ病ですか？」と言いつらい。認知症も同様。

- ・ 医師：説明が不十分 ⇒ 医師が本人に病気のことや薬についても説明をする必要がある・
- ・ 説明をしても、家に帰ったり、時間が経って確認すると理解が十分でないことがある。
⇒ 本人に関わる人で情報共有ができていれば理解のフォローもしやすい。
- ・ 本人が薬の内容を理解していなかった。
⇒ 本人に対して医師からどのように説明を受けているかの確認が必要。
⇒ 本人の認識を確認する必要がある。 誰がどのように確認するか・
⇒ 薬の内服状況や飲まない理由を薬局が話をできたのでは。
- ・ 日頃からこのような初期のケースに対して包括等に相談することはあるか。
⇒ 家族が相談する、関係機関から包括に連絡できると良い。

【2G】

[プロセス：意思の形成]

- ・ MSW の視点：・ 医師と患者のコミュニケーション、
この状況について本人や家族は納得しているか、本人や家族が理解できていたか確認しているか。⇒ コミュニケーションへの支援、院内での連携：環境整備
- ・ HDS-R：検査への不満、家族に対し投薬の促し
- ・ 家族：・ 「本人の意思がなくなれば自分が楽になるのでは」
⇒ 本人の投薬に対する家族の意思はどう伝えるか。 本人に投薬の説明が必要なのでは。
- ・ 本人の意思が受け入れられない場面（イライラする：抑肝散の処方）⇒ どこまで受け入れるのか
- ・ 認知症＝ドネペジルだけしか選択肢がないわけではない。⇒ サポート医のフォロー（情報共有）
- ・ 背景（患者のバックグラウンド）⇒ 内的論理の導き、情報共有から知る。多職種連携が必要。
- ・ 薬剤師：薬から病気を推察している。
- ・ GH：アセスメントで 「その人を知る」 ⇒ 選択しやすい工夫

② 本人が地域の一員として暮らし続けるために、フォーマルな社会資源を前提とせず、それぞれの立場を活かし、どのような環境調整やネットワークを作っていきますか。

【1G】

- ・ 本人の趣味等についても知る、聞いていく。
- ・ 家で閉じこもってしまうことがないように、外に出られるような関わりが必要。
- ・ そのためには様々な社会資源に関する情報が必要になる。
- ・ 人の役に立つ場、活躍できる場があると良いが、それを見つけていくことが難しい。
- ・ 外の人とつながっておくことが必要。
- ・ 本人や家族が、薬局やかかりつけ薬剤師とつながっておくことが理想的。
- ・ SOS が出たときに聞き取る、キャッチする力
- ・ 本人の変化に伴い、入所等、関わるサービスや人が変わるとに本人の思いや情報が分断され

る。

- ・言葉での意思の表出が難しい人の意思をどう確認していくか。
- ・改まって聞くよりも、本人の普段の様子や行動から本人を知る。
(GH 入居者が食事を食べなくなった。家族に本人の好きな食べ物を聞き出したところ、食べた)

【2G】

- ・ふれあいサロンへの参加は“元気な人”が前提。認知症への理解が参加の鍵になる。
⇒勉強会の開催
- ・関わりが切れてしまうことも。⇒地域に途切れない工夫が必要
- ・輪笑では移動の問題が課題
- ・高齢者の中でも認知症の人を馬鹿にする人もいる。カルテに書かないでという家族もいる。
⇒“物忘れ”で説明。
- ・グランドゴルフに認知症になっても行きたい。⇒関わりがなくなると急に悪化。
- ・何か役割を持てないか。得意なことや好きなことを活かした。
⇒チームで共有しておく。どのように共有するか。
- ・世代間を広げて考えていくことが大切。若い人はどう思っているのか。
- ・家族、夫と家事を共有しておく⇒力を奪わない、一緒にやる取組。
- ・子どもにあえて伝えていない。自然にわかる場合は受け入れていく。

事務局：今回の意見交換の意見を意思決定支援の実践の推進に向けて必要な視点や取組等について、整理し、具体的な取組の検討を進めていきたい。

- ・次回：・**第10回 認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会**

日時：令和8年9月16日(水)10時～ 場所：市役所西館5階大会議室

- ・**第2回 部会②意思決定支援について**

日時：令和8月12月18日(金)18時30分～ 場所：市役所西館3階303会議室